



# 東アジア共同体評議会会報

## The Council on East Asian Community Bulletin

Fall 2009 Vol.6 No. 4

### NEAT年次総会・国別代表者会議、ソウルで開催

東アジア共同体構想の推進母体としてASEAN+3 (APT) 諸国の間に「東アジア・シンクタンク・ネットワーク (NEAT)」が定着しつつある。その第7回年次総会 (AC) と第11回国別代表者会議 (CCM) が、8月30-9月1日、韓国・ソウルにおいて開催された。

NEATは、APT首脳会議によってその傘下に設立されたAPT13ヶ国政府公認のシンクタンク・ネットワークだが、毎年テーマ別の作業部会 (WG) を組織して、その研究成果をその年の年次総会と国別代表者会議に報告し、国別代表者会議はその結論を「政策提言メモランダム」の形にとりまとめて、その年のAPT首脳会議に提出している。

今年のNEAT総会には、インドネシアとミャンマーを除く11ヶ国のシンクタンク代表者計37名が参加したが、

日本からは、伊藤憲一東アジア共同体評議会議長 (団長) のほか、大賀圭治日本大学教授、河合正弘アジア開発銀行研究所所長、小西正樹東アジア共同体評議会常任副議長、進藤榮一筑波大学名誉教授、廣野良吉成蹊大学名誉教授、矢野卓也東アジア共同体評議会事務局長の計7名が出席した。

今年のNEAT作業部会は、東アジア地域における「金融協力」、「環境協力」、「文化交流」、「投資協力」、「食料安全保障」の5つのテーマについて作業を進めてきたが、その成果はまず総会に報告され、つぎに国別代表者会議で政策提言にとりまとめられた。この政策提言は、毎年APT首脳会議に提出され、首脳たちの議論の参考資料とされるため、国別代表者会議の議論は白熱したものとなった。

NEATの政策提言は、毎年「東アジア共同体の構築は、法の支配、民主主



NEAT総会出席者記念写真

義、人権などの普遍的価値に基づくべきである」との確認を行ってきたが、これは日本の主張に基づくものであった。今回、シンガポール代表から「普遍的価値の一つとしてsocial harmonyの概念を加えてはどうか」との提案があったが、伊藤団長から『『社会的調和』などという概念は普遍的価値の一つとして国際的承認を受けておらず、その真意を疑われる』との反論があり、シンガポールを支持する国はなく、この提案は撤回された。

### 東アジア共同体構想への対応

7月24日に開催された第33回政策本会議は、予定していた議題の審議を済ませた後、伊藤憲一議長の要請を受けて「東アジア共同体構想の現状と展望をどう考えるか」について、出席議員全員の参加する緊急討議を行った。

即ち、伊藤議長から『東アジア共同体』という言葉の定義をせずに、自分なりの定義を前提にして、『賛成だ』、『反対だ』と言っている議論が多すぎないか。例えば、現在の共産党一党支配の中国の存在を前提として、『だから反対だ』という議論のレベルに終始



問題提起する伊藤議長

しているのであれば、50年、100年の長期的展望をもった東アジア地域秩序論は不可能ということになる。そのようにして、日本が今その議論から撤退するならば、地域秩序構築の議論は、中国主導で進み、ASEAN、韓国はそれに追随していくことになるだろう。そして、日本は、将来その秩序を認めるか、拒否するか、の二者択一しかできなくなってしまう。それは日本の孤立につながるだろう。今後も日本は、『東アジア共同体構想』に関して積極的に発言していくことが重要であると思うが、皆様のご意見をお伺いしたい』との問題提起があった。

出席議員からは「中国は基軸通貨のあり方を問題としている。米国はAPECを中心に考えている。日本としても真剣な戦略をもつ必要がある」(大河原良雄世界平和研究所理事長) などの活発な意見が述べられた。

### 鳩山新首相に期待する

鳩山新首相がその政治理念を吐露した。雑誌『VOICE』と米紙『ニューヨーク・タイムス』への寄稿で、首相の政治理念である「友愛」がクーデンホフ・カレルギーの「フラタナティ」に由来することを明らかにし、「友愛」が導く国家目標の一つとして「東アジア共同体」があることを宣言した。

東アジア共同体を「夢物語」として、一笑に付することは可能だが、鳩山首相は「すべての偉大な歴史的出来事は、ユートピアとして始まり、現実として終わった。ユートピアにとどまるか、現実となるかは、それを信ずる人間の数と実行力次第である」との言葉で答えた。

日本には理念のある政治家が少ない。しかし、理念なくして、未来は絶対に開けない。われわれは、鳩山首相の「東アジア共同体」論を高く評価し、歓迎したい。(伊藤憲一)

# 百家争鳴から

当評議会のホームページ (<http://www.ceac.jp>) 上の政策掲示板「百家争鳴」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

## FTAは地域統合の本筋ではない

大阪市立大学大学院教授 山下 英次

地域統合というと、アジアの人は、まずFTAを頭に浮かべるようである。しかし、本来、FTAやEPAが地域統合の主役ということでは全くない。東アジア諸国は、域外諸国とのFTA締結に熱心であり、TPP (Trans Pacific Partnership) と呼ばれるアメリカとP4 (ブルネイ、チリ、ニュージーランド、シンガポール) の間のFTA交渉の開始 (これにオーストラリアとペルーも近く加わる) が決まっている。さらに、米国が提案しているAPECの21カ国ベースのFTA (FTAAP) の構想もある。

しかし、こうしたFTAに関する一連の動きは、自由貿易を世界的に広げるといった観点からは好ましいが、地域

統合そのものとは本来全く別話である。地域統合というのは、そもそも、外的ショックから自分たちの地域を如何に守るかというのが、その目的だからである。したがって、「開かれた地域主義」(open regionalism) という概念それ自体が、語義矛盾である。地域統合は、「閉ざされた地域主義」(closed regionalism) 以外にはありえない。EUも、メルコスールも、GCC (湾岸協力会議) も、すべからず閉ざされた地域主義である。「閉ざされた地域主義」から「関税同盟」を経て、「共同市場」と「域内共通通貨制度」を目指すのが、地域主義のあるべき姿である。そのことを忘れてはならない。

(2009年8月30日付投稿)

### 最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- |                                   |                                 |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 8/20 「アジア通貨単位 (ACU) は夢ではない」(吉田春樹) | 7/22 「政治の流れの潮目は変わるか」(花岡信昭)      |
| 8/18 「英語一本の国際化は大丈夫か?」(松本和朗)       | 6/29 「目にあまる政局報道のふれ」(杉浦正章)       |
| 8/7 「日本のファーストレディたちの外交」(中山太郎)      | 6/12 「ベトナムにおける反中国感情の再燃」(細川大輔)   |
| 7/31 「人民元による貿易決済は道遠し」(村瀬哲司)       | 6/4 「北朝鮮の脅威と日本国民の安全」(鈴木馨祐)      |
| 7/29 「ジャン・モネからアジアへのメッセージ」(近藤健彦)   | 6/3 「中国の『緑色革命』と東アジアの経済統合」(進藤榮一) |

### CEAC活動日誌 (6月-9月)

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| ◇ 6月10日、8月10日 『メルマガ東アジア共同体評議会』発行   | ◇ 7月10日 CEAC E-Letter発行                         |
| ◇ 6月30日 第5回監査役会                    | ◇ 7月24日 第10回運営本会議                               |
| ◇ 7月1-2日 NEAT食料安全保障WG (大賀圭治主査他21名) | ◇ 7月24日 第33回政策本会議 (廣野良吉副議長他18名)                 |
| ◇ 7月3日 NEAT投資協力WG (北京) (畠山襄副議長)    | ◇ 8月30-9月1日 第7回NEAT総会・第11回CCM (ソウル) (伊藤憲一議長他6名) |
| ◇ 7月9日 第16回企画委員会                   | ◇ 9月1-2日 第7回EAF (ソウル) (伊藤議長他6名)                 |
| ◇ 7月9日 第3回運営準備会議                   |   |

## 東アジア・フォーラム

さる9月1-2日、韓国・ソウルにおいて、第7回「東アジア・フォーラム (EAF)」が開催された。EAFは、産官学の代表者によるトラック1.5 (半官半民) の国際会合である。ASEAN+3首脳会議の決定を受けて、2003年より毎年各国持回りで開催されている。

今回のEAFは、「東アジア・シンクタンク・ネットワーク (NEAT)」とのバック・ツー・バックで開催され、ASEAN+3諸国からクワン・ジョンラク韓国外交通商部第1次官、サヤカン・シースボンASEAN事務局次長等



「東アジア・フォーラム」のもよう

65名が参加した。

そのうち、日本からの出席者は、鹿取克章ASEAN担当特命全権大使、伊藤憲一当評議会議長、小西正樹当評議会常任副議長、進藤榮一当評議会副議長、廣野良吉当評議会副議長、班目哲司日本郵船渉外グループ長、矢野卓也当評議会事務局長の計7名であった。

今回のEAFでは、「グローバル金融危機への対応」、「環境問題をめぐる技術移転の促進」、「東アジア・アイデンティティーの構築」「EAFサイバー事務局の設立」などが議論された。

### 事務局便り

8月1日付けで日本国際フォーラム研究員から同主任研究員に昇格したばかりの矢野卓也が、8月21日付けで東アジア共同体評議会の事務局長に発令されました (グローバル・フォーラム事務局長兼任)。日本国際フォーラム事務局に入局して以来2年8ヶ月になりますが、これまで縁の下の手力持ちとして果たしてきた仕事の実績が評価されたようです。頑張れ、矢野!



東アジア共同体評議会会報  
2009年秋季号  
(第6巻 第4号 通巻第21号)

発行日 2009年10月1日  
発行人 伊藤 憲 一  
編集人 菊池 誉 名

発行所 東 ア ジ ア 共 同 体 評 議 会  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301  
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] ceac@ceac.jp (代表)  
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.ceac.jp/>